

令和3年度 学力向上に係る効果的な取組事例

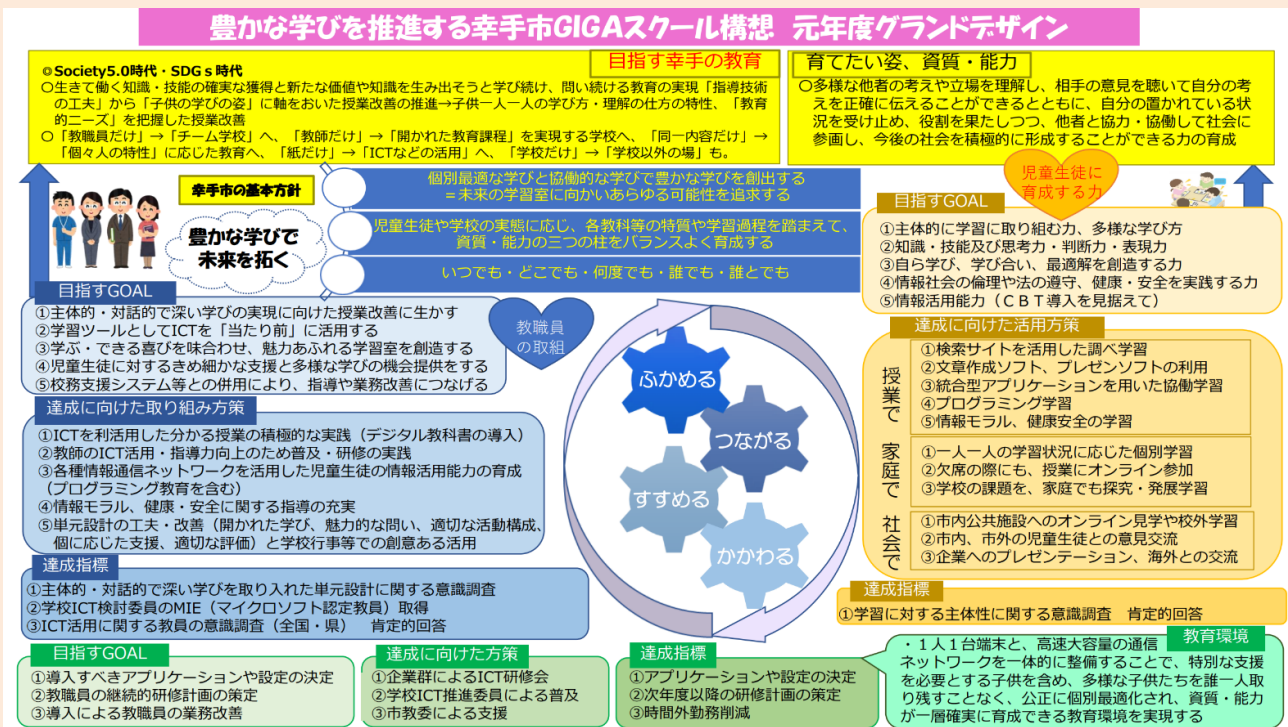
「一人一台端末を活用した学力向上を目指した授業実践について」

幸手市教育委員会

豊かな学びを推進する幸手市GIGAスクール構想 元年度グランドデザイン

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う令和2年の臨時休業中、児童生徒は、家庭で学習することになりました。家庭にいる児童生徒は、全国的な傾向として「あまり主体的に学習に向かう姿が見られなかった」との指摘があります。臨時休業という想定外の状況ではありましたが、これは、児童生徒が「何を」「どのような方法で」「どの程度」学習するかといったことに受け身で、主体的に取り組む力が学校教育の中で十分に育成されていなかったことに起因すると考えられます。

このような主体的に問題を解決していく資質・能力は、毎日の授業の中で、主体的に取り組む「機会を増やすこと」「状況を整えること」「様々な解決方法を提示すること」などを意図した実践を繰り返しながら、義務教育の中で育成していくことが必要です。そこで幸手市では、GIGAスクール構想で目指す教育について次のように設定しました。



幸手市では、日々の授業で、一人一台の学習者用端末の環境を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現し、主体的・対話的で深い学びを推進し、「豊かな学びで未来を拓く」教育を目指しています。



[グランドデザイン](#)



[各校の取組](#)

「一人一台端末ならでは」の学力向上を目指した授業実践

児童生徒の資質・能力を育成するためには、やみくもに一人一台端末を活用するのではなく、「一人一台端末ならでは」の学力向上を目指した授業改善が重要です。そこで、幸手市では、活動ごとに例を紹介し、各校の取組を支援しています。



A 収集する活動

児童生徒が、文字・音声・画像・映像等の学習するために必要な情報を取得する活動です。従来よりも多くの情報を、広い範囲から収集できます。

(例)インターネットで検索する、カメラ機能で画像や映像を撮る、Word、Excel、Power Point等で作成した資料を共有する、オクリンクのカードを送ってもらう、ムーブノートで目的にあったデータを収集する、Formsでアンケートを作成して回答してもらう、など



B 繰り返し見（聞き）返す活動

児童生徒が、文字・音声・画像・映像等の学習するために必要な情報を繰り返し見（聞き）返すことが可能です。特に、特定の状況、特定の場所でないと見られないものを記録して、何度も再生できることが強みです。

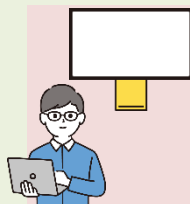
(例)ドライブに保存した文字・音声・画像・映像を繰り返し再生する、オクリンクのカード情報を繰り返し再生する、など



C 編集・操作する活動

児童生徒が、文字・音声・画像・映像等の情報を編集・操作する活動です。紙に書く行為に比べ、複製ややり直しが簡単な他、キーボード技能が身に付くと短時間で多くの情報の編集、推敲などが可能になります。

(例) Word、Excel、Power Point、White Board、オクリンクのカード、プログラミング用アプリ (Scratch)、ムーブノートを使ってみんなでカードを編集、など



D 提示する活動

児童生徒が、文字・音声・画像・映像等の情報を提示する活動です。コンピュータネットワークを活用することで、従来よりも広い範囲に対し、時間を問わず提示することが可能になります。

(例) 大型提示装置に投影する、作成した資料を Teams で共有する、オクリンクのカードを送付する、など



情報の記録

これらの学習活動はクラウド上に記録することができます。また、小学校入学時から中学校卒業まで、いつでも取り出すことができます。